

平成30年度水害・土砂災害からの避難訓練 (内閣府・四万十市)

実施報告書 (概要版)

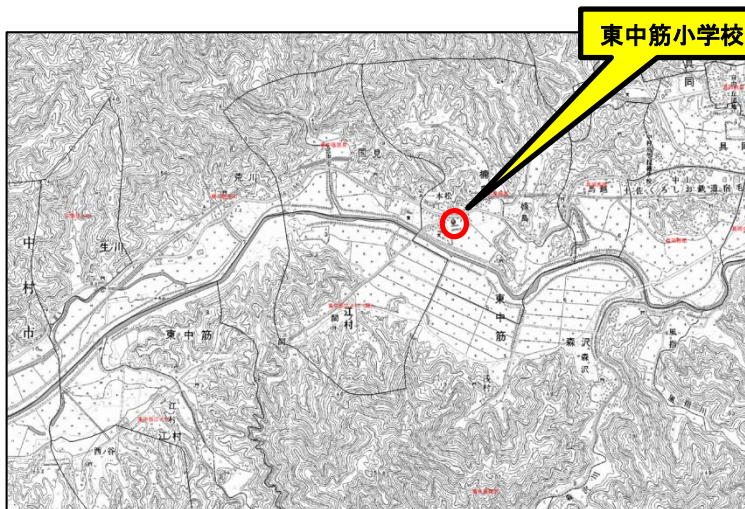
高知県四万十市について

四万十市は、旧中村市と旧西土佐村が、平成17年に合併して誕生しました。

旧中村市は、今から約550年前、前関白一条教房公が応仁の乱を避けてこの地に下向し、京都を模したまちづくりを始めたことから、「土佐の小京都」と呼ばれています。

四万十市は、高知県西南部に位置し、豊富な山林資源と日本最後の清流四万十川、南東部は太平洋に面しており、自然環境に恵まれた、人口約34,000人のまちです。（出典：四万十市ホームページ）

四万十市では、津波避難訓練を市内の津波浸水想定区域を対象に平成24年度に初めて実施して以来、毎年継続して行ってきました。東中筋地区でも毎年津波避難訓練を行ってきましたが、昨今の頻繁な水害・土砂災害の発生に伴い、今年初めて、水害・土砂災害から身を守る避難訓練を内閣府との共催により実施することとなりました。



訓練概要

- 訓練想定：水害・土砂災害の発生を想定
- 実施日時：○平成31年1月27日（日）08：30～15：20
水害・土砂災害からの避難訓練、避難訓練と連携した炊出訓練・配膳・試食、消火・放水訓練、リヤカーを利用した要救助者搬送訓練
○平成31年2月23日（土）13：30～14：30
学習発表会
- 主催：内閣府、四万十市
- 参加者数：約160名
- 参加機関：自治会・自主防災組織、中学校、小学校、警察、消防等

訓練の評価

平成24年度以来、毎年津波避難訓練を重ねてきたが、近年の水害・土砂災害の増加に伴い、水害・土砂災害から自分の身を守る訓練の必要性を認識し、今回は、津波避難訓練に加え水害・土砂災害への対応訓練として実施した。

訓練実施後のアンケートの結果、「繰り返し訓練をすることが必要」、「自治会や家族でいつも話し合うことが必要」、「訓練は課題を多く抽出することが、災害に備えて大変重要」という意見が提出された。

また、市から「災害・避難カードへの記入により、気象情報・避難情報、避難のタイミング避難場所の周知が図られた。」、小学校から「小学生が作成した防災マップを地域に配布して、地域の防災力アップを図る。」、自主防災組織から「子どもたちに東北の津波テンデッコをいやというほど言い続け、災害に強い子供に育てたい。」という所見が出された。

今回は、避難訓練及び講習会・講演会と小学校の学習発表会により、タイムライン形式の災害・避難カードと防災マップ形式の災害・避難カードの双方（災害・避難カードの要素の大部分）を東中筋地区の地域の皆さんに紹介することができ、地域の防災意識の高揚を図ることができた。

更に、学習発表会の一課目として、街歩きを実施して防災マップを作成することは、学校における防災教育として、将来の防災リーダーの育成に欠かせないことであり、更に中学生による避難行動要支援者に対する避難支援の研究にも繋げていくことが期待される。

しかしながら、今回避難場所とした小学校は地域で一段高い場所ではあるものの、校庭の先は堤防となっており、地域の住民は川に向かって避難することになるため危険と隣り合わせであることも認識し、地区として水害からの避難要領については今後とも市とともに検討する必要がある。

避難訓練、防災講習会、講演会及びその他の訓練【1月27日（日）】

1月27日（日）08:30～09:00 避難訓練

▼東中筋小学校への避難

自らの命は自ら守るという「自助」の取組に重点を置き、水害・土砂災害が発生したとの想定で、東中筋小学校へ避難を実施した。



1月27日（日）09:00～09:45 防災講習会

各教室において、学年に応じた大雨に関する学習、ダム・治水についての学習等により、防災意識の高揚を図った。

▼大雨（四万十市） ▼ダム・治水（国交省） ▼大雨（気象台）



1月27日（日）10:00～11:30 講演会、避難カードの説明

体育館において防災アドバイザーによる被災地、被害状況やボランティア活動の様子の講演会、国の平成30年7月豪雨に対する取組及び災害・避難カードの紹介をした。

▼講演会 ▼災害・避難カード説明



1月27日（日）11:30～15:20 その他の訓練

校庭において、自主防によるリヤカーを使用した要救助者搬送訓練、消防による消火訓練及び自治会による炊出訓練、中学生等による配膳、全員による試食を実施した。

▼要救助者搬送訓練 ▼消火訓練 ▼炊出訓練

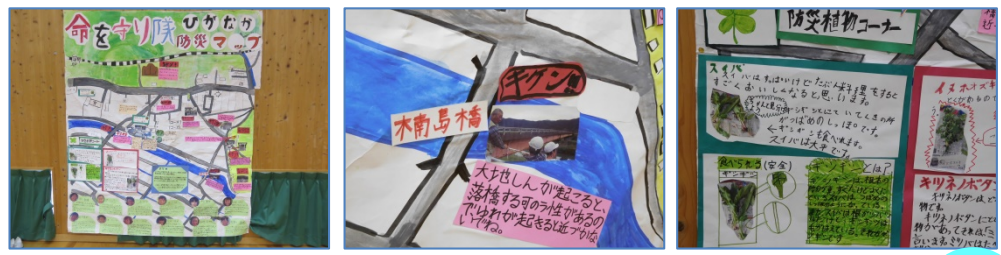


学習発表会【2月23日（土）】

2月23日（土）13:30～14:30 学習発表会（防災マップの発表）

東中筋小学校では、学習発表会において、3年生が防災マップの作成について発表し、危険な場所、安全な場所、食べられない植物、食べられる植物等を地域に紹介した。

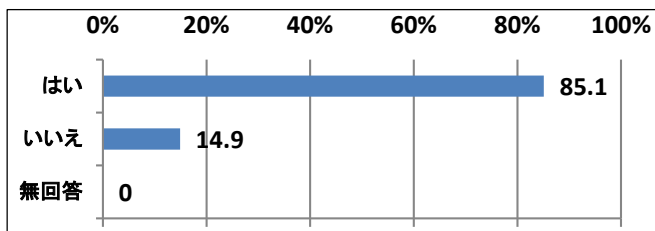
▼ひがなか防災マップ ▼危険な場所 ▼防災植物



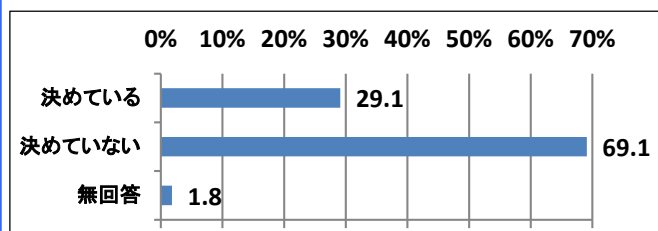
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

四万十市が作成したハザードマップを見ることがありますか。（回答数=54人）



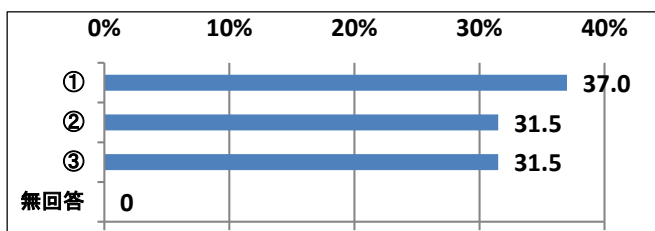
災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数=110人）



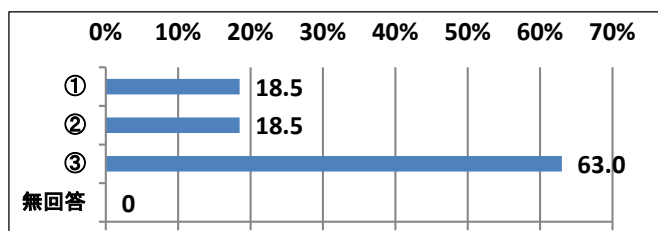
次の情報の内容を理解していますか。（回答数=54人）

①避難準備・高齢者等避難開始 ②避難勧告 ③避難指示（緊急）

【理解できている】



【危険度が一番高い】



【自由回答欄】

- ・地域での訓練として、昨年実施した避難所設営訓練をまた実施してもらいたいです。学校の人だけでなく地域の人を前もって来場を促して大人数でやってみたら良いと思います。学校の人だけでやった昨年であんなにギューギューで大変だったので、地域の人も体験し地域のつながりを持ってもらいたい機会だと思っています。
- ・自分の命は自分で守るという大事さがわかった。
- ・災害がより身近なものとして実感できた。自分で動くということの大切さがよくわかった。
- ・小中学生の保護者の立場として、子供が学校にいるいろいろな場面で発生した時、自分で判断して動くことをたくさん訓練して欲しい。
- ・家族と一緒にいないときでも、安心して避難できる方法を考えたい。
- ・災害が発生した際の行動や連絡手段について、家族とよく話し合っておくことが重要だと思った。
- ・ボランティアの重要性を認識した。